

第壹號第四書式

兄ノ跡ヲ弟相續シ姊ハ夫ヲ廻入シタル例
(姉冒頭事項欄内ニ年月日ノ下
名トアルハ姊ノ夫ノ名ヲ記ス)

福井縣何郡村何番地	平民	前戸主亡兄氏名	男長	年月日生
年月日相續ス○				
年月日何縣何郡何村絶家亡名ニ女入籍ス○	主戸	亡父名三男		
年月日何縣何郡何村平民氏名ニ男入籍ス○	母	亡父名妻		
年月日名妻トナセ○	姉	姉名夫		
	夫	亡父名長女		

第壹號第五書式

養子亡養父ノ後ヲ繼ギ并ニ家女離縁分家ノ後復籍無籍者就籍ノ例

福井縣何郡村何番地	平民	前戸主亡養父氏名	主戸	亡養父名養子	年月日生
年月日全縣何郡何町平民氏名ニ男入籍ス○年月日相續ス○					
年月日全縣何郡何町士族氏名長女入籍ス○	母	亡養父名妻	男長	年月日生	
年月日妻ノ處離縁年月日何縣何町平民氏名方ニ同居分家ス○年月日願濟廢家ノ上復籍ス○	姉	亡養父名二女	女長	年月日生	
年月日願濟無籍ノ處就籍ス○					

第壹號第六書式

戸主廢家ノ上家族引連他家ニ養嗣子トシタル例

福井縣何郡村何番地				平民	
年月日相續ス○				前戸主亡父氏名	
全縣全郡何町平民亡氏名長男年月日願濟何只胎家ノ上母名妹名携帶入籍ス○				主戸 亡父名長男氏 年月日生	
年月日養嗣子名妹ノ處携帶養女トシテ入籍ス○				子嗣養 年月日生	
年月日養嗣子名母ノ處携帶入籍ス○				女養 亡氏名養 年月日生	
第壹號第七書式				平民	
女戸主其家名ヲ廢シ養女ヲ携帶婚嫁シタル例				前戸主亡父氏名	
福井縣何郡村何番地				平民	
年月日相續ス○				主戸 亡父名二男氏 年月日生	

福井縣何郡村何番地				平民	
年月日全縣全郡何町平民氏名二女分家○年月日願濟廢家之上養女名携帶入籍ス○				妻 年月日生	
年月日全縣全郡何町士族氏名二女妻名養女ニ成リ受ケテ處年月日妻名結婚入籍ニ付携帶養女トシテ入籍ス○				女養 年月日生	
第壹號第八書式				平民	
長男分家ノ後本家絶家再興ノ例				前戸主亡父氏名	
福井縣何郡村何番地				平民	
年月日何縣何町何村平民亡氏名長男願濟願濟分家○年月日願濟廢家ノ上本家何氏絶家ヲ再興ス○				主戸 亡父氏名長男氏 年月日生	
年月日何縣何郡何村平民氏名三女入籍ス○				妻 年月日生	
男長		女長		妻	
年月日生		年月日生		年月日生	

明治二十年

年月日全縣全郡何町平民氏名二男入籍全日亡跡相續ス○		主戶	亡父名長男氏名	年月日生
年月日全縣全郡何町平民氏名姉入籍ス○		母	亡父名妻	年月日生
年月日全縣全郡何村平民氏名妻、處離縁ニ付長女名携帶復歸ス○		男長	亡父名長女	年月日生
全縣全郡何村平民氏名長女、處年月日母名離縁復歸ニ付携帶入籍ス○		姉	姉名長女	年月日生
全縣全郡何村平民氏名二女、處年月日母名離縁復歸ニ付携帶入籍ス○		姪	姉名二女	年月日生
<p>第壹號第十二書式</p> <p>亡跡相續并ニ長男養子ニ賞受ケルニ例</p>		平民	前戶主亡母氏名	
福井縣何郡何村何番地				

明治二十年

年月日全縣全郡何町平民氏名二男入籍全日亡跡相續ス○		主戶	亡養母名養子氏名	年月日生
年月日全縣全郡何村平民氏名長女入籍ス○		男長	長男名養	年月日生
年月日全縣全郡何町平民氏名三男入籍ス○		姪	長男名養子	年月日生
<p>第壹號第十三書式</p> <p>嫡孫承祖及縁女ノ例</p>		士族	前戶主亡祖父氏名	
福井縣何郡何村何番地				
年月日相續ス○		主戶	亡祖父名孫氏名	年月日生
年月日全縣全郡何町士族氏名伯母入籍ス○		母祖	亡祖父名妻	年月日生

明治二十年

年月日全縣全郡全町士族氏名長女入籍ス○

女縁

年月日生

第壹號第十四書式

退隱ノ父分家タル例

(戸主肩書名父トアルハ
本家戸主ノ名ヲ記ス)

福井縣 何郡 何村 何番地

平民
前戸主

年月日全縣全郡何町士族氏名父退隱長女名携帶分家ス○

主戸

名父亡父名長男
氏

年月日生

年月日全縣全郡何村平民氏名三男入籍ス○

子嗣養

養嗣子名妻

年月日生

年月日養嗣子名妻ト爲ス○

女長

養嗣子名妻

年月日生

第壹號第十五書式

幼戸主母ニ夫ヲ貰受家督相續タル例

福井縣 何郡 何村 何番地

平民

前戸主亡前夫名長男氏名

年月日願濟全縣全郡全町平民氏名次男名(母名ハ
入夫トアルハ入籍ス○年月日相續ス○)

主戸

亡前夫名遺書名入夫
氏

年月日當縣士族氏名姉入籍ス○

妻

亡前夫名長男

年月日生

年月日願濟母名ハ入夫貰受年月日家名讓渡退隱ス○

子ノ夫前

亡前夫名長女

年月日生

子ノ夫前

亡前夫名長男

年月日生

子ノ夫前

亡前夫名長男

年月日生

第壹號第十六書式

女戸主ハ入籍ノ例

(戸主ノ肩書
名トアルハ妻ノ名ヲ記ス)

明治二十年

福井縣何郡村何番地		平民
年月日全縣全郡何町士族氏名第入籍○ 全日相續ス○		前戸主妻氏名
年月日父退隱賣家へ復籍ニ付相續○年月日入夫ヲ賞ヒ受ケ全日家名讓渡ス○		主戸 名入夫氏 年月日生
		妻 妻父名長女 年月日生
		妹妻 妻父名二女 年月日生
		弟妻 妻父名二男 年月日生
第壹號第十七書式 遺妻亡夫ノ後ヲ繼キ棄兒ヲ養子ニ賞ヒ受ケタル例		
福井縣何郡村何番地	平民	
年月日全縣全郡何村平民氏名三女入籍ス○ 年月日相續ス○	前戸主亡夫氏名	主戸 亡夫名妻氏 年月日生

福井縣何郡村何番地		平民
年月日全縣全郡何町士族氏名附籍ノ棄兒賞受入籍ス○		子養 年月日生
第壹號第十八書式 亡兄ノ遺妻其弟ト結婚甥ヲ相續人ト定メ實子出生在籍ノ例		
福井縣何郡村何番地	平民	前戸主亡兄氏名
年月日願濟亡兄名遺妻ト結婚○年月日相續ス○		主戸 亡父名三男氏 年月日生
年月日全縣全郡何村平民氏名妹入籍ス○		母 亡父名妻 年月日生
年月日願濟全縣全郡何村平民氏名姉結婚入籍ス○		妻 年月日生

年月日相續人ト定ム○

男長	名	年月日生
男長	名	年月日生
男長	名	年月日生

亡兄名長男

第壹號第十九書式

年少ノモノ年長者ヲ貴受相續セシムル例

福井縣何郡村何番地

平民

前戸主養弟氏名

年月日何縣何郡何村何氏名ニ男養弟名相續人トシテ入籍ス	主	氏	名	年月日生
年月日何縣何郡何村平民氏名姉入籍ス○	妻			年月日生
年月日退隱○	養弟			年月日生

養弟名相續人亡養父名養子

亡養父名長男

第壹號第二十書式

分家シタル長女退隱ノ父母ヲ引取其父相續セシムル例

(肩書名トナルハ長女ノ名ヲ記ス)

福井縣何郡村何番地

平民

前戸主長女氏名

年月日何縣何郡何町何士族氏名父退隱妻名携帶入籍ス○年月日相續ス○	主	氏	名	年月日生
年月日何縣何郡何町何士族氏名ニ女入籍ス○年月日携帶入籍ス○	妻			年月日生
年月日何縣何郡何町何士族氏名長女分家ス○年月日父ノ母名ヲ引取ル○年月日退隱○	長女			年月日生

父父亡父名ニ男

第壹號第二十一書式

亡弟ノ長男ヲ相続人ト定メ家名ヲ讓リタルモノ庶子并ニ伯母ノ私生子在籍例

福井縣何郡何番地		平民
前戸主伯母氏名		伯母名相續人
年月日相續、○	氏名	年月日生
年月日亡夫名跡相續ノ處年月日甥名ニ家名ヲ讓リ讓渡○	伯母夫名妻	年月日生
○	母伯	伯母名私生長男
全縣全郡全村平民氏名ニ女名私生年月日願濟引受入籍ス	子庶	年月日生
	弟從	伯母名私生長女
	弟從	年月日生
	弟從	年月日生

第壹號第二十二書式

養祖母ノ跡ヲ繼キタルモノノ附籍ノ例

福井縣何郡何番地士族氏名附籍		平民
前戸主亡養祖母氏名		亡養祖母孫
年月日何縣何郡何村平民氏名ニ男入籍全日相續○年月日全縣全郡全村ヨリ全戸附籍○	主戸附	氏名
年月日全縣全郡全村士族氏名ニ女入籍○	妻	年月日生
年月日何縣何郡何村平民氏名第入籍ス○	子養	年月日生
年月日何府何縣何郡平民氏名方へ附籍ス○	女長	年月日生

備 本書式ハ全戸ノ例ヲ掲ケタルモノニ付家族ノ附籍者ニ在ツテハ客年一丙第十四號通
 ニ基キ附籍主ノ戸籍ノ次キハ一戸籍用紙第二式ヲ用ヒ入寄留者登記ノ例ニ準ビ記載
 考 ヲ(編纂スルモノトス

第三號第四樣式

明治 年 月
入 寄 留 簿

郡 內 之 部

■ 井 縣 何 郡 何 町 外 何 々 町 戶 長 役 場

寄留全戶之部 松村竹下村何 村何
寄留世帯主之部 松村竹下村何 村何
寄留全居之部 松村竹下村何 村何

第三號第五樣式

明治 年 月
出 寄 留 簿

郡 內 之 部

■ 井 縣 何 郡 何 町 外 何 々 町 戶 長 役 場

松村竹下村何 村何

第四號第一様式

後見人名簿様式

明治二十年調製

後見人名簿

福井縣何郡何村外何ヶ村戸長役場

松村	何村
竹下村	何村
何村	何村
何村	何村

第四號様二書式

後見人名簿記載例

後見人解除ノ其事項ヲ朱記シ
朱線ヲ書スヘシ其變換ノ亦同シ

福井縣何郡何村何番地

士族(平民)

年月日相續ノ處丁年未滿或ハ何々ニ付

氏名

後見人トナル

後見人

年月日滿二十歲已上或ハ事故止ミタルニ付

氏名

後見人ヲ解除ス

何縣何郡何村何番地平民

(父母又ハ同戸籍中コアル祖父母伯叔父母
等ノ後見人トナルハ其續柄ヲ記スヘシ)

○縣達第百二十三號 明治二十年十一月四日

郡役所 戸長役場

年期ヲ定メ外國船へ乗込ノ約ヲ爲シ海外旅券下付願出候者ノ中徴兵徵集相當ノ資格ヲ有シ
其年期中適齡トナルヘキ者ヘハ該旅券下付不相成候條自今証明願出候節ハ篤ト取調ノ上該
年期中適齡トナラサル者ニ限リ願書進達致スヘシ

○縣達第四十二號 明治廿一年四月二十一日 戸長役場
埼玉縣下ニ於テ雇人トナラントスル者ニテ身元ノ證明ヲ要スル爲メ其原籍又ハ現住地戸長ノ添書ヲ請求スルモノアルトキハ事實取札ヲ相違ナキモノハ之ヲ付與スヘシ

明治廿一年
告示第百十六號

○縣令第九十八號 明治二十一年八月十日
失踪又ハ死亡跡遺留財産ヲ其親族ニ於テ保管スル場合本人又ハ其家ノ利害ニ關シ協議ヲ以テ賣却交換若クハ質入書入等ヲ爲サントスルトキ不動産ニ付テハ自今都テ所管始審裁判所ノ認許ヲ受ク可シ

○訓令第二十六號 明治廿一年十月六日 郡長 戸長

送籍狀ハ戸籍用紙ヲ相用ユヘキハ十九年内務省令第二十二號第十六條明文ノ通りニ候處便宜ノ爲メ往々該用紙ヲ折半或ハ單ニ一二摺ヲ書シ相用ヒ候向モ有之候處自今總テ全戸籍用紙ヲ相用ユヘシ

○告示第百十六號 明治廿一年十二月十八日

明治廿一年
告示第百十六號

親族又ハ戸長ニ於テ保管スル失踪逃亡並ニ死亡者ノ遺留財産成分ニ付從前始審裁判所ノ認許ヲ經タルモノハ自今始審裁判所所在地ニ於テ除外管轄治安裁判所ニ認許ヲ乞フコトヲ得ヘシ

○訓令第五號 明治廿二年二月七日 郡役所 戸長役場

私生子ヲ男子己レノ子ト認メ戸長ノ免許ヲ得シハ父庶子ノ稱呼ヲ生シ其父タルモノハ引受ケタルヘキニ付縱令双方ノ情願ト雖モ其僅婚女ノ籍ニ差置クヲ得サルモノトス
但從前本文ニ抵觸ノ指令ハ取消ス

○訓令第十九號 明治廿二年二月十四日 郡役所 戸長役場

入籍報知書之義ハ十九年十二月達第七十四號書式ニ準シ各役場野紙ヲ用來候處自今郵便留書ヲ以テ代用スルモ苦カラス

○縣達第三十五號 明治廿二年四月一日 郡市町村

失踪逃亡死亡及絶家ノ財産ヲ市長又ハ町村長ニ於テ保管スルキハ其財産目録帳ヲ調製シ市長ハ當廳ヘ町村長ハ郡役所ヘ差出シ置クヘシ

但明治十七年一丙第八號邊ハ廢止ス

○縣達第三十七號 明治廿二年四月一日

郡市町村

明治十九年(十二月)達第七十四號戸籍簿編製取扱心得第四條中登記目録ヲ添付ノ下「市長ハ當廳へ町村長ハ」ノ十字ヲ加ヘ第十一條中經費ハ「戸長役場經費ヲ」トシテ「市役所費又ハ町村役場費ヲ」ト改正ス

○訓令第三十七號 明治廿二年四月六日

郡市町村

市町村名改定候ニ付從來ノ戸籍居住地ノ欄ハ一時新市町村名ヲ朱書記入シ置キ爾後書換テ要スル都度改寫整理スヘシ但シ事項欄内及登記目録ハ朱書記正テ要セス爾後書換若クハ取扱ノ際新市町村名ヲ記入スヘシ

明治廿二年訓令第六十三號

○縣令第六十五號 明治二十二年五月三日

從來戸籍上出願等ヲ要スル事項ノ内無籍者編籍ハ勿論誤脱誤離等コト僅々一字一語ノ加除改訂ト雖モ渾テ其確證トナルヘキ書類物件等相添ヘ自今本官ノ許可ヲ請フヘシ

○訓令第六十三號 明治廿二年六月廿六日

郡市町村

明治五年戸籍簿編製以後ノ出生死亡等ノ届漏レノ者コト正當ノ理由アリモノハ勿論明治十九年内務省令第十九號第九條ニ依リ處分ヲ受ケタルモノハ本年縣令第六十五號ニ依リ出願ヲ要セス從前ノ通り即決裁判言渡書寫又ハ事由書ヲ添ヘ市役所又ハ町村役場へ届出サセ就籍ノ手續ヲ了スヘシ

○訓令第六十六號 明治廿二年七月廿七日

郡市町村

人民送入籍之義東京市ニ於テハ從前之通區長ヲシテ事務取扱ハシメ候旨東京府ヨリ照會有之候條自今送籍及入籍報知書ノ義該市區役所へ宛直ニ送附スヘシ

○縣達第五十二號 明治廿四年七月廿一日

郡市町村

明治十九年^{十二}達第七十四號戸籍登記書式中目錄書式第十四管內送入籍ノ部第五項名ノ上「婦」ヲ「養女」ト改メ事項中廢家ノ上ノ下「夫妻共」ノ三字ヲ挿入ス又同第七項中平民氏名ノ下「養孫」ヲ「養子携帶」ト改正ス

戶
籍
明治廿四年

四〇一

社 寺

○乙第五十七號 明治十四年五月一日

郡 役 所

住職ニ關スル件ハ明治十七年大政官第十號布達ニヨリ自然消滅

縣社以下神官及寺院 吉田郡志比村永平寺足羽郡福井寺今立瀧清水頭村 住職名簿編製候條本年四月三十日現在ノ神官住職別紙雛形ノ通名簿調整セ。ノ本月十五日限。無違漏取圖ノ差出スヘシ尤神官住職員數表其筋へ上伸ノ都合有之候條本年一月一日以來撰任ノ者ハ體形朱書ノ通其年月日記載セムヘシ此旨相達候事

但當五月一日以後撰任スル者ハ本文雛形ニ準シ名簿差出候様違量ヘシ

名簿雛形 竪四寸 横一寸四分

神官ノ例

住職ノ例

何國何郡町(村) 欽座

何國何郡町(村)

社格何神社祠官掌 或 副祠掌

何宗派何寺住職 或 副住職

職名

何 某

職名

何 某

全上本年一月一日以後拜命者ノ例

何國郡村(町)欽座
社格何神社祠官掌 或 副祠掌
何 某 印
明治 年 月 日拜命

全上本年一月一日以後拜命者ノ例

何國郡村(町)
何宗派何寺住職 或 副住職
何 某 印
明治 年 月 日拜命

全上兼務ノ例 但無格社類受持

何國郡村(町)欽座
社格何社祠官掌
兼何村(町)社格何社祠官掌
何村(町)社格何社祠官掌
職名 何 某 印
明治 年 月 日拜命

全上兼務ノ例 但佛堂ノ類受持

何國郡村(町)
何宗派何寺住職 或 副住職
兼何村(町)何宗派何寺住職 或 副住職
何村(町)何宗派何寺住職 或 副住職
職名 何 某 印
明治 年 月 日拜命

但本人不在ノ向ハ代印ニテモ可カラス

○乙第七號 明治十四年七月二日

郡役所

社寺創建再興復舊等願書進達ノ節ハ明治十一年内務省乙第五十七號建并十三年同省乙第二十八號建及同年同省乙第五十二號建ニ依リ度々無遺漏精査可致此旨相達候事

明治十七年八月太政
官第十九号布達ヲ以
テ寺院住職進達ノ件
ハ各官長ハ委任ニ付
テ八號建同年丙第六十
八號建參看

○丙第二十二號 明治十四年七月十九日

郡役所 戸長役場

但本文出願ノ向ハ十二年内務省乙第三十一號建建形ニ準テ明細書相添差出サスヘシ

縣社以下神官及寺院住職進退願書指出候節ハ左ノ各項ニ據リ精査致スヘシ此旨相達候事

- 一 社格及宗派名ヲ記スル
- 一 前職 神官ノ者欠員セシ年月日及其事由 退職轉任ヲ記スル
- 一 他ノ社寺ニ在職ノ者ヲ撰舉 轉任スル時ハ其社寺ノ氏子檀徒若シテハ信徒ハ協議ノ上該總代ノ承諾書又ハ連署ヲ以テ出願スル
- 一 神官ハ氏子ノ歸依ニ任スト雖モ其最寄村町ニ於テ重立候神官 祠官ニ名以上ノ連署ヲ要ス
- 一 住職ハ信徒ノ歸依ニ任セ或ハ法類教道取締連署又ハ本寺本山ノ撰書等其宗規及慣例ニ因ル

○甲第百十四號 明治十四年八月一日

社寺總代人ノ義氏子檀家中 氏子檀家ナキ相連ノ財產ヲ有シ兼望ノ飯スルモノ三名以上相連

明治十四年八月太政
官第二十号布達ヲ以
テ社寺總代人ノ義氏子
檀家中 氏子檀家ナキ
相連ノ財產ヲ有シ兼望
ノ飯スルモノ三名以上
相連ノ件

ミ戸長役場へ届出シテ而シテ今後該社寺ノ願届等ハ深ク右總代人連署ヲ以テ可差出且社寺
 收入財産ハ田畑山林ノ所得ハ勿論賽物所購辦 其共有ニ屬スヘキモノト其神官住職ニ付スル
 者トノ豫約毎社寺適宜相定平素混亂セザル様可致此旨布達候事
 但官國幣社ハ此限ニ非ス

○丙第三十六號 明治十四年九月三日

那役所 戸長役場

今般内務省甲第八號布達ニ付戊第二號ヲ以テ佛道各管長へ別紙之通達相成候條萬一不都合
 ノ所業有之節ハ最寄警察署へ通知及フヘシ此旨相達候事

○戊第二號

佛道各宗派管長

僧侶托鉢解禁之儀今般別紙甲第八號布達候ニ付テハ自今左ノ條件遵守各宗派僧侶（救濟職
 試補以上）ノ内托鉢ヲ爲サント欲スルモノノ免許方法及取締規約取調可伺出此旨相達候事

内務卿松方正義代理

明治十四年八月十五日

内務大輔 土方久元

托鉢免許方并托鉢者心得

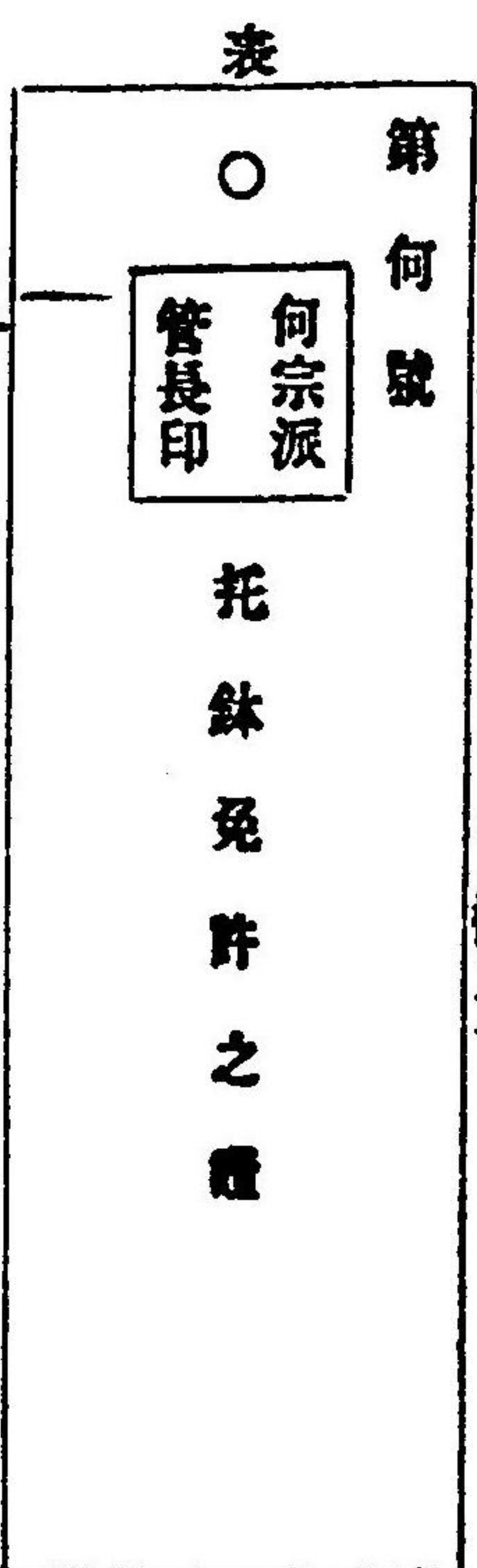
- 一 托鉢ヲ免許セントキハ左ノ雛形ニ照シ免許證ヲ交附シ其都度願者所在ノ地方廳へ通知シ
 東京ハ警視署へモ通知スヘシ
- 一 托鉢ヲ行フハ午前第七時ヨリ同第十一時迄ヲ限リトス
 但遠路往返ノ爲メ時間ヲ遷延スルハ非此限
- 一 托鉢者ハ如法ノ行裝ニテ免許證ヲ携帯シ行乞スルヲ常トス施者ノ請フアルニテラシ
 人家ニ接近シ濫リニ歩ヲ駐ムヘカラス且施物ハ施者ノ意ニ任セ敢テ餘物ヲ乞テ許サス
- 一 托鉢者ハ一例三人以上十人以下タルヘシ且公衆來往ノ便ヲ妨クヘカラス
- 一 免許證ハ何時タリトモ警察官等ノ檢閲ニ供スヘキモノトス

標牌雛形

木製

縦六寸

横二寸



表

第何號

○ 何宗派
管長印

托鉢免許之證

燒印

何 縣 府	何 縣 府
何 郡 區	何 郡 區
何 町 村	何 町 村
何 住 徒 第	何 住 徒 第
何 年 月 日	何 年 月 日
何 試 導 職 名	何 試 導 職 名
何 年 月 日 生	何 年 月 日 生

○甲第三百二十八號 明治十四年九月十四日
 人民ノ居宅ニ於テ一時說教執行ノ儀ハ是迄出願ノ向ニ有之候處自今其儀ニ不及候條此旨布達候事

○甲第二十三號 明治十五年二月四日

社寺境内地樹木伐採ノ儀ハ其地所ノ官民有テ論セス管廳ノ許可ヲ得テ着手可致ヘ勿論候得共若心得違ノ者等有之候ハ不都合候條自今此度出願許可ノ上伐採方着手可致此旨布達候事

○甲第九十三號 明治十五年五月九日

各町村鎮座氏神ノ儀ハ其土地ニ就キ從來一定ノ區域有之儀ニ付各自ノ信否ニ任セ振テ去就スヘキモノニ無之候條町村分合等ニヨリ不得止協合有之甲社ノ氏神一部落舉テ乙社ノ氏子ト相成節ハ甲乙社神官氏子協議ノ上雙方連署郡役所ヘ届出可ク此旨布達候事
 但明細帳引直ノ儀ハ更ニ當廳ヘ申出テヘ

○丙第五十二號 明治十五年六月二十日

郡役所 戶長役場

神社寺院並境外遙拜所招魂社祖靈社支坊佛堂創建再興復舊公稱改稱移轉廢合社格更定及境内外地並建物ノ増減變換氏子檀信徒ノ増減等總テ異動ニ係ルモノハ自今別紙様形ニ照準明細書調製其都度爲届出毎三ヶ月三月六月九月十二月取纏ノ其異動無之町四月七月十月一月五日限郡役所ヘ差出郡役所ニ於テ異動ノ有無共調査之上其由ヲ具シ明細書ノミ同月十日限當廳ヘ可差出此旨相達候事

但越前國^{敦賀郡}社寺境外地等十二年明細帳改製之際反別地價未定ノ向ニテ爾後地券下付之節モ本文ニ準ス且該改製以來本年三月三十一日迄ノ異動コソテ届出タル向ニ有之候ハ、本文ニ準テ取調本月分届出之節一同別括ヲ以テ差出スヘ

(神社明細帳書式第一)

明治十六年
第百二號
附錄更正

福井縣管下何國郡何町何番地字何

社格何

某神社

一 祭神

一 由緒

一 社殿

一 境内

一 境内神社

一 某神社

祭神

由緒

建物

一 境内某遙拜所

由緒

建物

奥前
行口
何何
間間

幾
坪

幾
社

民官
有地第何種

奥前
行口
何何
間間

奥前
行口
何何
間間

明治十六年
第百二號
附錄更正

明治十七年
第百二十號
附錄更正

一 境内招魂社

由緒

建物

一 境内祖靈社

由緒

建物

共有人員

一 境外所有地

耕地反別何反何畝步

地價金何程

山林反別何反何畝步

地價金何程

宅地反別何反何畝步

地價金何程

一 氏子
何戶

奥前
行口
何何
間間

奥前
行口
何何
間間

何村町字何

何村町字何

何村町字何

明治十六年丙午
第百二號ヲ以テ
テ后更正

一福井縣迄距離 何里

以上

年號月日

(寺院明細帳書式第二)

福井縣管下何國何郡何村何番地字何

何國何郡何村總本山或一本寺某寺末

某寺

何宗何派

- 一本尊
- 一由緒
- 一堂宇
- 一境內

官有地第何種

某神社祠官 何 某印

某神社祠官 何 某印

何郡何村何番地士族 何 某印

氏子總代 何 某印

戶長 何 某印

一境內佛堂 幾字

某堂

本尊

由緒

建物

一境內庵室 幾字

某庵

本尊

由緒

建物

一境外所有地

耕地反別何反何畝步

地價金何程

山地反別何反何畝步

地價金何程

奥前 行口 何何 間

奥前 行口 何何 間

何村町字何

何村町字何

明治十六年丙午
第百二號ヲ以テ
テ后更正

明治十七年丙
第二十號ヲ以
テ水増力法調
道加

明治十五年丙
第百十三号ヲ
以テ本書式照
止

宅地反別何反何賦歩

何村町字何

地價金何程

一樓徒

何人

一福井縣鹿沓距離

何里

以上

年號月日

何寺住職職名何

某印

何郡何町何番地士族

何郡何町何番地平民

某印

何郡何町何番地戸長

某印

(境外遊拜所明細帳書式第三)

福井縣管下何國何郡何町何番地字何

某神社遊拜所

一由緒

一建物

一敷地内

與前
行口
何何
間間

民官
有地第何種

明治十五年丙
第百十三号ヲ
以テ本書式照
止

明治十五年丙
第百十三号ヲ
以テ本書式照
止

一信徒 何人

以上

(境外招魂社明細帳書式第四)

福井縣管下何國何郡何町何番地字何

招魂社

一由緒

一建物

一共有

以上

與前
行口
何何
間間

(境外祖靈社明細帳書式第五)

福井縣管下何國何郡何町何番地字何

祖靈社

一由緒

一建物

一敷地内

與前
行口
何何
間間

民官
有地第何種

明治十五年

一 共有 何 人
以上

明細書記載方心得

- 一 擬末社ノ名義ヲ問ハス神社境外ニ在ル者ハ總テ一社トス
- 一 山野路傍存置ノ神祠並ニ衆庶參拜ヲ許可セザル人民私邸内ノ神祠ハ並ニ一社トシ其神社境内ニ移轉セザル者ハ境内神社ノ項下ニ記スヘシ
- 一 神社明細書式中央社號ノ肩ニ社格何トアルハ單ニ縣社、郷社、村社、無格社ト記シ社格ノ二字ハ記載ニ及ハス
- 一 相殿ニシテ社號ヲ存スルモノ記載方左之通

社格アルモノ
社格何 何 神社
社格何 何 神社
社格ナキモノ
社格何 何 神社
何 神社

一 祭神 何 々
相殿 何 々

一 由緒ハ創立公稱廢合再興復舊移轉及ヒ社格等許可ノ年月日並ニ該社寺ニ關スル緣由沿革ヲ詳記スヘシ

但祭神由緒不詳ト雖モ古老ノ口碑等ニ存スル者ハ其旨ヲ記スヘシ
一 社堂内之建物等アルモノハ其記載方左之通

神社ナラハ

一本殿 前 前 前 前 何 何 何 何 間 間 間 間
一拜殿 前 前 前 前 何 何 何 何 間 間 間 間
一神饌所 前 前 前 前 何 何 何 何 間 間 間 間
以下之ニ倣フ
寺院ナラハ
一堂宇 前 前 前 前 何 何 何 何 間 間 間 間
一庫裏 前 前 前 前 何 何 何 何 間 間 間 間
以下之ニ倣フ
奥前 奥前 奥前 奥前 何 何 何 何 間 間 間 間
行口 行口 行口 行口 何 何 何 何 間 間 間 間

明治十五年

明治十六年丙
第百二号ヲ以
テ記載方改正

一社寺境内地ノ社寺名受ニアラザルモノ其記載方左之通

一境内 幾 坪 民有地第何程

何某外幾名共有或ハ何某私有

一境内ニ官民有ノ兩地種アルモノハ其記載方左之通

一境内 幾 坪

幾坪官有地第何程 (社寺名受ニアラザルハ前項ノ例ニ依リ)
幾坪民有地第何程

一境外所有地アルモノハ各地券狀毎ニ其券面ノ反別地價等ヲ記載スヘシ其書式ハ左之通

耕地反別何反何畝何步 何 町 字 何

地價金何程 何 町 字 何

宅地反別何反何畝何步 何 町 字 何

地價金何程 何 町 字 何

山地反別何反何畝何步 何 村 字 何

地價金何程 以下之ニ依リ

一社寺ニ氏子權徒無之向ハ信徒ノ中ノ人員ヲ記スヘシ

一境内祖靈社ノ書式中共有人員トアルハ其建物共有人員ニシテ本社ノ氏子ニ非ス

明治十六年丙
第百二号ヲ以
テ記載方改正

一寺院ノ支坊並ニ懸所ト稱スル向其所屬寺院ノ境外ニアルモノ有書記載方左之通

何縣管下何國何郡何町何番地字何

何國何郡何村何宗派某寺支坊

(寺號アルモノノ例) 某 寺

何國何郡何村何宗派某寺

(寺號ナキモノノ例) 支 坊

一境内神社ニシテ社格アルモノ並ニ境内塔中等ニシテ獨立寺號ヲ公稱シ住職ヲ置クモノハ各社寺明細書式ニ據リ別紙ニ調製スヘシ

但境内坪數並地種記載方ハ敷地幾坪官有地第何種何社寺境内ト記スヘシ

一山野路傍ニ存置ノ神祠佛堂並ニ衆庶參拜ヲ許可セシ人民私邸内ノ神祠佛堂ニシテ境内ニ有セサルモノハ敷地幾坪ト記スヘシ

一例ハ甲地ニアル社寺等コソテ火災或ハ大破等ニヨリ再建マテ一時乙地ニ寄寓スル者ハ甲地ノ町村番地字名ヲ肩書シ由緒中ニ其乙地ニ寄寓スル事由ヲ詳記シ社堂間數ノ項下ニハ(由緒ノ通ニ付無之)ト記載スヘシ

一異動ニヨリ更ニ明細帳差出スルモノハ其異動ノ廢ハ朱字ニテ記シ且其増減變更セシ年月日

ナ傍書スヘ
一書式列記ノ項中無之者ハ其項ヲ除クヘ

○丙第六十五號 明治十五年七月二十日

郡役所 戸長役場

戊第三號ヲ以テ左之通 神道副總裁 相違候旨ヲ以テ内務省ヨリ達ノ次第モ有之候條今後違背之輩有之候ハ、速ニ當廳ヘ可申出此旨相違候事

戊第三號

神道副總裁 神佛各管長

禁厭祈禳ノ儀ニ付七月六日 六教部省乙第三十三號達之趣有之候處病者治療ノ際之カ爲メ投票ノ時機ヲ誤リ候儀モ有之哉ニ相聞不都合候條今後信者ヨリ請求候節ハ先服藥之有無ヲ證明セシメ果シテ醫師診斷治療中ノ者ニ限リ其望ミニ應シ不苦候條其旨屹度可相心得此段相違候事

明治十五年七月十日

内務卿 山田 顯義

○甲第百三十一號 明治十五年八月三日

社寺境内立木ノ義ハ土地ノ風致ヲ添ユルノミナラス自然人民尊敬ノ意向ヨリ關係候條可成樹木減少セサル様可致就テハ自今官有社地ヲ限リ社殿修繕ノ爲枯損木無代價下渡ヲ出願スル向ハ其許可ヲ得タル日ヨリ三十日以内ニ伐木一株ニ付五本以上ノ苗植ヲナスヘ此旨布達候事

但季節ニ因リ苗植難致キハ別紙雛形ニ準テ請書差出置其季ニ葉ヲ實地苗植スヘ
(別紙雛形)

請書

官有第何種何社境内枯損木

何郡何村

一木種 何本

何神社

目通何尺
延長何間

右枯損木無代價御下渡相成候付テハ直ニ苗植可仕之處即今季節ニ達ヒ實行難致ニ付來ル何月ニ至リ無相違苗植可仕此段御請仕候也

年月日

祠官

何之 雜印

氏子總代

何之 雜印

長 官 宛

保 証 人

何 之 職 印

戶 長

何 之 職 印

明治十六年六月二十九日
外務省
丙第百六十七號

○甲第百四十七號 明治十五年九月十一日
今般皇典講究所設置ニ付府縣社以下神官撰舉ノ節該所ノ卒業證書無之者ハ皇典講究所本分所ノ試験ヲ受テ試験済ノ證書ヲ相渡候旨ニ付今後撰舉出願ノ向ハ該所卒業證書寫者ハ試験済ノ證書ヲ願ヘ願書差出スヘ此旨布達候事

○甲第百五十九號 明治十五年十一月廿四日
神社寺院等創立再興復舊許可之分ハ今後滿二年以内ニ建設スヘ其建物巨大ニシテ工事敷年ニ涉ル可キ者ハ更ニ狀ヲ具シ出願許可ヲ受クルモノトス其他在來ノ社寺ニシテ震災ニ遭ヒ建物悉皆烏有ニ歸スル者ハ滿五年以内ニ再建スヘ若シ期限ヲ過キ建設セラル者ハ許可

ナ停メ社寺明細帳削除スヘキニ付其期ニ臨ミ届出ヘ此旨布達候事

○丙第百十三號 明治十五年十一月廿四日 郡役所 戶長役場
本年本縣丙第五十二號遠社寺明細帳書式中境外遠拜所招魂社祖靈社ノ書式相續候條都テ社寺書式ニ據リ認メシムヘ此旨相達候事

○甲第三號 明治十六年一月十九日
府縣社以下神社附屬ノ講社ニシテ教法部類ニ非レモ今後新ニ結集候節ハ豫メ其方法場所等ヲ詳具シ當廳ノ認可ヲ受ヘ此旨布達候事

號 外 明治十六年六月廿九日 縣社以下神官
客年本縣甲第百四十七號ヲ以テ神官撰舉之節試験證書等之備布達候處從來奉仕之神官ト雖モ同様之筋ニ付來明治十七年十二月迄ニ夫々試験ヲ受テヘ此旨論達候事

○丙第百二號 明治十六年十月二十九日 郡役所 戶長役場

明治十七年五月廿九日
及同十八年
二月廿七日
外務省

昨十五年丙第五十二號達中左之通改正候條此旨相違候事

一 明細帳書式中社寺所在地記載方書「何町何番地字」何トアルナ「何町第何號字第何番地」ト

ス

一同上境外所有地及記載方心得第九項中「耕地」トアルナ各「田或」ト「何町字何」ト總テ何

町第何號字何第何番地」トス

○丙第二十號 明治十七年二月廿九日

郡役所 戶長役場

明治十五年六月本縣丙第五十二號達社寺明細帳書式第一中境外所有地ノ次へ左ノ一項增加候

條此旨相違候事

一 永續方法

金何圓錢厘 資本

金何圓錢厘 每年氏子(檀徒)(信徒)ヨリ寄付高

米何石斗升 每年氏子(檀徒)(信徒)ヨリ寄付高

(境外所有地ノ上り高ハ爰ニ記スルノ限ニアラス)

明治十六年甲
第四百四十七號
布達書

○甲第二十號 明治十七年四月二日

明治九年六月秋部省第四號布達廢止候旨其筋ヨリ違有之候條自今佛像他管へ持出開帳之儀者該寺住職檀家總代無檀家ノ寺院及本寺法類違尋本山經書之上所轄郡役所へ出願スヘ此旨布達候事

但賣物持出ハ不相成

○號 外 明治十七年五月廿九日

縣社以下神官

從來奉仕ノ神官受職之儀ニ付テハ客年六月二十九日號外ヲ以テ及論違置候處其試驗濟ノ節ハ該證書寫相添へ届ケ出ツヘ此旨相違候事

○丙第四十六號 明治十七年五月三十日

郡役所 戶長役場

神社縣社ハ神官ヲ以テ奉社セムヘク管ニ候處往々之ヲ定メサル向有之不都合ニ候條夫々取調本年十二月迄ニハ必ス撰舉致サスヘ若右期限迄ニ撰舉シカキ情故アルモノハ其事由ヲ具シ延期申出テサスヘ此旨相違候事

但無格社ハ村社以上ノ神官ヲ以テ受持ト定メ該名簿相添信徒ヨリ届出テムヘシ

明治十七年丙午
第百九號ヲ以テ
前除及同二十
五年縣達第十
正号ヲ以テ改

○丙第四十八號 明治十七年六月七日

郡役所 戸長役場

縣社以下神官及寺院住職ニシテ犯罪又ハ政事ノ妨害ヲ爲シ若クハ素行修マラズル者アル時ハ其事實ヲ證明シテ具申スヘシ此旨相達候事

○丙第六十八號 明治十七年八月廿一日

郡役所 戸長役場

今般太政官第十九號布達ヲ以テ神佛教導職ヲ廢シ寺院住職ノ任免等總テ各管長ハ委任相成候ニ付テハ管長及從前教導職ヲシテ者ノ身分左ノ通被取扱候條爲心得此旨相達候事
一 管長ハ總テ勅任官取扱ノ例ニ依ル
一 從前教導職ヲシテ者ハ總テ其在職ノ時ノ等級ニ準スルモノトス

○丙第六十六號 明治十七年十月四日

戸長役場

皇典講究分所へ試験ヲ願ヒ得ヘキモノハ丁年以上ニシテ維新後犯罪處刑ヲ受ケタル者ニ限リ候答ニ付戸長役場ニ於テ之ヲ證明スル爲該願書ノ蓋頭へ役場印ヲ押シ與フヘシ此旨相達候事
但丁年未滿ノ者及維新後犯罪處刑ヲ受ケタル者ノ書面ハ其儘返付別ニ皇典講究分所へ

明治十八年丙午
第百十八號達
委看

其旨通報スヘシ

○丙第九十九號 明治十七年十月九日

郡役所 戸長役場

本年六月丙第四十八號達中「及寺院住職」之五字削除候條此旨相達候事

○甲第五十五號 明治十七年十二月五日

轉宗改式之儀ハ自今不及届出候條此旨布達候事

○號 外 明治十八年二月廿七日

縣社以下神宮

從來奉仕ノ神官受職ノ義ニ付テハ明治十六年六月廿九日附及輪達置候處病氣又ハ皇典講習中等ニテ試験未済ノ者モ有之候ヘシ遲クモ本年十二月迄ハ必驗試ヲ受クヘシ此旨相達候事

○訓第二十一號 明治十八年七月四日

郡役所

僧尼改名等ノ義ニ付左之通伺定候條爲心得此旨訓示候也
但本文ニ抵觸スル從前ノ指令ハ消滅ト心得ヘシ

明治十八年

僧尼改名等之義ニ付伺

一 明治九年^{十二} 第五百五十六號布告ヲ以テ僧尼ト公認スル者ハ諸宗教導職試補以上ニ限ル云々公布相成候處客年月^八第十九號布達ヲ以テ神佛共ニ教導職ヲ被廢候ニ付テハ僧尼ト稱スルモノハ教師以上ノ者ナル哉將タ得度濟以上ノ者ナル哉

一 前條兩段何レニアラモ其僧尼ト公認スル者ニアラサレハ俗稱ヲ法名ニ改ムル義ハ難聞届義ト相心得可然哉

右差掛リ候事件有之候間至急何分ノ御指撥相成度此段相伺候也

福井縣合石黒務代理

明治十八年六月八日

福井縣少書記官 本部 奏

内務卿伯爵山縣有朋殿

書面伺之趣左通可心得事

第一條 僧尼タルノ分限ハ各宗制ニ依リ確定スヘシ

第二條 得度濟之旨師僧副書ヲ以テ届出候ハ、聞届不苦

明治十八年六月廿二日

○丙第九十八號 明治十八年九月廿四日 戶長役場

社寺所藏ノ古書畫古器物爲参考圖書寮官員臨時出張閱覽候儀ニ可有之旨其筋ヨリ申來候條其節差支無之様豫テ縣社以下神社并寺院へ通達シ置テ、此旨相達候事

○丙第百十八號 明治十八年十一月十二日 戶長役場

皇典受驗願書へ押印方等客年十月丙第百六號ヲ以テ相達候處世襲ノ神官ニシテ該社ニ深キ由緒アル者ノ子弟又ハ既ニ祠官アル縣郷社ノ祠掌ニ撰舉スヘキ者ハ自今丁年未滿ト雖モ十五年以上ハ試験ヲ願ヒ得ヘキ筈ニ候條其者共ノ願書へモ押印シ與フ可シ此旨相達候事

○甲第百二十六號 明治十八年十二月廿五日

社寺境内へ碑表ヲ建設セントスルモノハ先ツ其碑材碑文形状寸法及事由等ヲ詳具シ碑表明細圖并其建設箇所ヲ明記シタル境内見取圖ヲ添付シ、官有地ニ係ルモノハ神官住職氏子檀徒若シハ信徒總代ノ連署ヲ得テ當廳へ出願スヘシ而シテ其許可ヲ經ルモノハ更ニ昨年十月太政官第二十五號布達第七條ノ手續ヲ爲スヘキ儀ト心得ヘシ此旨布達候事

明治十八年

○諭第三十號 明治十八年十二月廿八日

皇大神宮大麻、天祖ノ御璽ニテ國民タル者ハ篤ク尊奉セサルヘカクテ義ニ付信仰ノ者ハ可成其旨意ヲ體認スヘシ此旨諭告候事

○達第六號 明治二十年一月十七日 郡役所 戸長役場

社寺境内ニ於テ建物新築セントスルモノハ審面ニ事由ヲ詳具シ其建物之同坪數及建設之箇所ヲ明記シテ精圖ヲ添付シ神官住職并氏子檀徒若クハ信徒總代三名以上連署之上當廳へ出願許可ヲ受クヘキ義ニ付其旨相心得戸長ニ於テハ所轄内社寺へ相達スヘシ

○縣達第十五號 明治二十年二月四日 郡役所 戸長役場

去十七年丙第四十八號達中縣社以下神官トアルヲ神佛敎師及神官并寺院住職ト改正ス

○縣達第二百二十二號 明治廿年十一月二日 郡役所 戸長役場

社寺ニシテ若其社殿堂宇等祭祀法用ニ必用ナル部分公賣處分ヲ受ケル場合ニ於テハ該處分ノ日ヨリ百日以内ニ再建ノ方法相立テ關係者連署寺院ハ管長ノ添書ヲ以テ届出ツルモノニ

限リ建築ノ爲メ滿ニケ年ノ猶豫ヲ與ヘ百日ヲ經テ再建ノ方法ヲ不申出又ハ滿ニケ年間ニ建築セサルモノハ明細帳ヲ删除候條此旨相心得戸長ニ於テハ所轄内社寺へ相達スヘシ

○縣達第五號 明治廿二年一月廿四日 郡役所 戸長役場 神社 寺院

縣社以下祠官祠堂死亡等ニテ欠員候向ハ本廳へ寺院住職ノ選送ハ所轄戸長役場へ届出ツヘシ

但明治十四年五月甲第五十七號布達ハ廢止ス

○縣達第七號 明治廿二年一月廿六日 戸長役場

社寺總代人届ノ義ニ付テハ明治十四年八月本縣甲第百十四號布達ノ趣モ有之候處本廳ニ於テ要用ノ義有之候條其役擔備ノ分テ腰寫社寺格別ニシテ二月十五日隔、可差出但本文差出後異動増減有之節ハ其都度届出ヘシ

○訓令第十九號 明治廿三年七月廿一日 越前國 敦賀郡 市町村

眞宗大谷派寺院ヨリ差出ス諸願届等ハ總テ該派敎務所ニ於テ事實取調ノ上連署爲致候旨該

明治廿四年縣達第四十號ヲ以テ廢止

管長ヨリ申出ノ次第モ有之候條自今右取締ノ違者アルモノニ限リ奥印ノ上差出スヘシ

○縣令第十三號 明治二十四年二月二十六日

明治十七年甲第百八號全十八年甲第百十九號全二十二年縣令第十二號左ノ通改正ス

祠宇並寺院創立再興復舊公稱改稱引直移轉廢合及附屬ノ地所建勅什物抵當賣買其他賣物
古文書等ノ財産又官有地ニ係ル祠宇並寺院境内ノ異動及伐木等ニ關シ出願ノ節ハ
本寺法
類連 管長ノ添書ヲ以テ差出スヘシ但官有地ニ係ル境内ノ障得木伐採及地租條例ノ規定ニ
ヨリ出願スルモノハ此限ニマラス

○縣令第四十三號 明治二十四年六月四日

明治十四年八月本縣甲第百十四號布達中共有ノ二字ヲ社寺有ト改メ左ノ一項ヲ増補ス

總代人ハ滿三年毎ニ改撰市役所町村役場へ届出ツヘシ尤モ期限中ト雖モ犯罪其他不貞ノ
所爲アルトキハ臨時改撰スヘシ
但臨時改撰ノ外ハ前總代人再三當撰スルモ妨ケナシ

明治廿四年
縣令第四十三號

○縣達第四十號 明治二十四年六月十九日

郡市町村

明治廿二年一月縣達第七號ヲ廢止ス

○訓令第二十四號 明治廿四年六月十九日

郡市町村

社寺總代人ノ年限并改撰方等ノ儀本年縣令第四十三號ヲ以テ明治十四年甲第百十四號布達
改正候ニ付テハ右社寺總代人ノ儀ハ此際一般改撰セシムヘシ

前項改撰ノ上届出タルキハ市役所又ハ町村役場ニ於テハ適宜社寺總代人名簿ヲ製シ置キ自
今社寺ノ願届等ハ渾テ該名簿ニ照查スヘシ

○縣達第四十一號 明治廿四年六月十九日

郡市町村

神社(民有地ノ社)
寺院(寺ヲ除ク)

官有地社寺境内使用并竹木伐採處分左ノ通相定ム

一境内地ヲ他人ニ使用セシムルハ其社寺ヨリ當廳ノ認可ヲ受クヘシ但祭典等ニ際シ一時使
用スルハ其社寺限リ承諾スルヲ得

一竹木ヲ伐採シ及枯損木障得木處分ニ關スルモノモ前項ニ依ルヘシ

一境内ノ使用料并竹木其他ノ收益ハ其社寺ノ收入ニ屬スヘシ但收入財産ハ官國幣社ヲ除ク

明治十九年達第十八號
 郡市町村條例ノ部
 務及市町村條例ノ部
 ニ出ス

ノ外明治十四年本縣甲第百十四號布達ニ依リ整理スヘシ

○縣達第四十二號 明治二十四年六月十九日

明治十九年九月達第十八號中第七項ヲ取消シ及全年十二月達第七十號全二十年六月縣達第九十四號ヲ廢止ス

但本日以前境内地ノ貸渡及竹木伐採ノ處分ニ係ルモノハ本文達第七十號及ヒ縣達第九十四號達ノ離形ニ依ヒ製表ノ上來二十五年二月二十八日限リ當廳ニ差出スヘシ

(参照)

明治十九年十二月二十一日達第七十號

本年十月達第四十號分任條件中第二十八項第廿九項可取扱ニ於テハ別紙離形ニ依ヒ之ケ月毎(三、六、九)ヲ取調製表翌月一日其地ヲ發シ當廳ニ差出スヘシ

但第二十九項ノモノニシテ本年七月ヨリ九月マテニ係ル分既ニ處分決行ニ係ルモノハ此際取調速カニ差出スヘシ

(別紙)

(用紙美濃野紙)

社寺境内官有地貸渡明細表

(明治何年何月)

貸貸之部

地名	何社寺境内地	使用目	期限	段別(坪)	壹箇月借地料	貸渡月日	貸渡氏名
合計							
同							

貸貸返地之部

地名	何社寺境内地	年貨下	段別(坪)	一ケ月借地料	收入料金	收入料金ノ月日數	返地月日	返地氏名
合計								
同								

無貸貸之部

地名	何社寺 境内地	期限	反別坪	貸渡月日	事由	氏名
同						
無貸貸返地之部						
地名	何社寺 境内地	貸下月日	反別坪	返地月日	事由	氏名
合計						
一 貸貸ノ部借地料ノ一ヶ月ニ滿テタルモノハ其期限中ノ借地料ヲ記入スヘシ 一 貸貸返地ノ部収入料金ハ其期限中徴收シタル料金ノ全額ヲ記入スヘシ 一 収入料金月日數ハ其料金ニ該當スル月數或ハ日數ヲ記入スヘシ 社寺境内官有地貸下料下渡仕譯書 (明治何年何月)						

下渡金額	該當期限	在 下	社 寺 名
金 何 程	自何月何日 至何月何日	何郡何町村第何 號字何何番地	何 社 寺
合計			

明治廿年六月三十日縣達第九十四號 郡 役 所

社寺官有地境内木竹伐採處分員數表

社寺官有地境内木竹伐採員數表明治二十年已降別紙彙形ニ依ヒ每半年分取調翌月ハ其年七月後半分ハ翌年一月十日限ヲ當廳ニ差出スヘシ但本文取扱ノ事項無之トヤハ其旨期日マテニ附申スヘシ

社寺官有地境内木竹伐採處分員數表 (明治何年) 後半年分

地名	社格	社寺名	木種	木數	目 寸	通 間	處分月日	事由
何國何郡何 字何々何番	何 社何神社	何 院寺						倒木枯木ノ別等其處 分ノ事由ヲ詳記スヘシ

										何 院 寺 境 外 佛 堂
合 計										

右之通候也

年號月日

何郡役所印

明治廿一年十一月七日訓令第廿九號

郡役所

明治十九年十二月達第七十號及客年六月縣達第九十四號達社寺境内官有地貸渡明細表全貸下料下渡明細表及社寺官有地境内木竹伐採員數表ノ儀ハ自今一個年分ヲ製表シ翌年二月二十八日限、當廳ニ差出スヘシ但本年分ハ木竹伐採員數表ハ前半年マ、貸渡明細表貸下料下渡明細表ハ第三季マ、既ニ差出濟ニ付各其以後ノ分ノ、本文期日ニ差出スヘシ

明治二十四年
縣達第五十六號

○縣達第五十三號 明治廿四年七月廿五日

郡市 町村 神社

縣鄉村社神官奉務規則左ノ通相定ム

縣鄉村社神官奉務規則

第一條 神官ハ神明ニ對シ尊崇悃誠ヲ主トシ典例ニ從ヒ各其本務ヲ盡スヘシ

第二條 神官ハ祭祀ノ典則舊來ノ儀式ヲ遵守シ決テ紛亂スヘカラス其社ノ例祭民俗因襲ノ神賑等ハ適宜行フコトヲ得

但臨時祭ヲ行ハントスルトマ、所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第三條 神官ハ人民ノ請求ニ應ジ神符神像等ヲ授ケルハ妨ケナシト雖トモ胡モ貪汚ノ所爲アルヘカラス

アルヘカラス

第四條 神官ハ社殿及其境内ノ清潔ニシテ修造取締等常ニ意ヲ注シ、書觀ヲ失墜セス汚穢破損ニ至ラズヘカラス

ニ至ラズヘカラス

第五條 神官ハ神社所藏ノ寶物什器及古文書類ヲ監視シテ散逸セシムヘカラス如何ナル場

合ト雖トモ賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス

第六條 神官ハ神社所有ノ財産ヲ管理シ金穀ヲ出納スヘシ

第七條 神官ハ其管理ニ係ル不動産積立金穀ヲ濫リ、賣却讓與又ハ質入書入スヘカラス若

レ不得止必要アルトキハ氏子又ハ信徒ノ協議ヲ經當廳ノ許可ヲ受クヘシ
 第八條 神社ニ委托山林アルトキハ其栽植伐採其他山林ノ保護ニ注意ヲ損害ヲ來スカ如キ
 コトナカラシムルヲ要ス

○縣達第五十六號 明治廿四年八月九日 郡、市、町、村、神社

本年縣達第五十三號ヲ以テ神官事務規則相定メ候ニ付テハ該規則ノ首題ニ基キ縣舞村社神
 官協議ノ上神官取締規約ヲ設ケ本年十一月三十日迄ニ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

褒 賞

○丙第四十九號 明治十七年六月十日

郡役所 戸長役場

公益ノ爲メ金穀財産等寄附又ハ施與ノ者有之願書進達又ハ具申ノ節ハ左ノ項目取調差出ス
ヘシ此旨相達候事

一族 籍 家族ナレハ戸主ノ名、母妻ノ姓異ナルモノハ其本姓

一官位勳 有位帶勳者ノ家族ハ其戸主ノ氏名位勳

一重罪受刑ノ有無

一會社又ハ一町村等共同若クハ總代ヲ以テ寄附或ハ施與セタルモノハ左ノ通記スヘシ

何 郡

何 町 村

何 郡 町 村

何 會 社

何 郡 町 村 總 代

又ハ何某外何名總代

何 某

一 数町村又ハ数人共同シテ寄附或ハ施與セント雖モ其金高分チ得ヘキモノハ可成各別ニ肥スヘシ

恤 救

明治十九年
第二十三号訓
示

○丙第八十二號 明治十六年八月二十日

郡役所 戸長役場

濟貧恤窮ハ人民相互ノ情誼ニシテ親戚郷黨ニ於テ其力既ニ盡クルノ場合ニ至リ始テ官ノ救護アルヘキ筈ニ有之然ルニ漫ニ老幼癯疾々病ノ名ヲ以テ救助ヲ申立ル様ノ義有之候テハ政府恤救ノ旨趣ニ乖戾シ不都合ニ候條郡戸長ニ於テ一層注意シ右様之儀無之様致スヘキ因テ今般恤救取扱心得書左之通相定候條自今右ニ遵據可取扱此旨相達候事

恤救取扱心得書

第一條 獨身ノ者老衰^{七十年}以上幼弱^{十三年}以下癯疾々病等ニテ産業ヲ營ム能ハス事實無慮亦費ニ

シテ他ニ保育スル者ナキ無告ノ窮民ハ恤救ヲ仰キ得ヘキモノトス

但老衰及癯疾等ノ者ト雖モ其業ニヨリテハ生産ノ道相立ツヘキ者ナントセキレハ實際不得已者ニ限ルヘシ

第二條 恤救ヲ仰キ得ヘキ者ト雖モ可成其町村内ニ於テ保給ノ官ノ救助ヲ仰カザルヲ以テ本旨トスヘシ

第三條 前條町村内ニ於テ保給スル者若シ其手當不足ニシテ幾分カ官ノ救助ヲ仰カザレハ

保給不能ハキルハ其事由及拾助米ノ石數等詳細記載申出ツヘ

第四條 老幼癩疾々病等ノ者獨身ニ非スト雖モ餘ノ家人七十年以上十五年以下ノレハ獨身ニ準シ木人ヘノミ給與シ亦餘ノ家人コソテ同様 老幼癩疾 難捨置情故アレハ其者共ヘ救與スルヲアレンレ然レトモ一家數人ノ救助ニ及フハ成ヘテ減省ノ見込ヲ立テ各自救助ヲ仰ガサレ様注意スヘ

第五條 疾病等ニテ救助ヲ受ケル者ハ全快ノ期ヲ調査シ在舊給與ヲ受ケル等ノ事ナキ様注意スヘ

第六條 恤救願書ヲ進達シ又ハ具狀スレ時ハ該家戸籍ノ原本及老衰癩疾々病ナレハ醫師ノ診斷書相添左ノ廉々精密取調フヘ

- 一 恤救ヲ仰ク者ノ住所 町村 番地 族籍姓名年齢
- 一 老幼癩疾等ニテ自存スル能ハキル事由
- 一 自宅又ハ借家之別
- 一 財産ノ有無
- 一 嘗テ親戚無黨ヨリ救助シタ者ハ其次第及年月日等

明治十九年丙第六十五號建
同第六十五號建
十六號參者

○丙第六十三號 明治十九年六月二日

高役所 戸長役場

行旅病人及死亡人取扱方手續別紙之通改正ス

但明治十六年丙第五號全年丙第六號全年丙第五十三號全年丙第一百二號全年十九年丙第三十號達ハ渾テ廢止ス

右相違ス

(別紙)

行旅病人及死亡人取扱方手續

明治十九年丙第八十一號中追
加テ本條中追
明治十九年丙第八十一號中追
加テ本條中追
明治十九年丙第八十一號中追
加テ本條中追

第一條 行旅ノ嚴重病癩鐵等ニ追ルモノアルキハ所在戸長ハ其住所姓名等ヲ詳細聞札ニ悉切ニ之カ救護ヲ加ヘ本籍分明ナル者ハ直ニ本籍戸長ヘ通達又ハ醫師ノ診斷書 體質症候經過原因病名治法後等ヲ明ニ添ヘ引取方ヲ照會スヘ

第二條 前條救護費用ヲ本人ニ於テ辨償スルヲ能ハキルキハ別紙書式ノ費用明細書ヲ添ヘ本籍戸長ヘ償還ヲ求ムヘ

第三條 本籍詳ナラキ死亡人ノ埋葬諸費ヲ當廳ヘ請求スルキハ其姓名 不詳者ハ姓名 年齢 不詳者ハ之ヲ推測シ 男女ノ別病死倒死變死ノ事由其地名年月日假埋葬地名并掲示場新聞紙廣告ノ年月日其新聞紙名廣告後九十日ニ滿チタル年月日ヲ明記シ別紙書式ノ費用明細書并

明治十九年
第四十七号
除本條中
以テ

代價受取書ヲ添付スヘシ

第四條 本籍詳ナル死亡人ノ埋葬諸費ヲ本籍戸長ニ要求スルハ亦第二條第三條ノ手續ニ據ルヘシ而シテ其最初ヨリ本籍詳ナルノ廣告ニ依リ判明シタルトノ次第ヲ明記シ當廳ニ届出ツヘシ

第五條 病人救護費及死亡人埋葬等ノ諸費ハ病人又ハ死亡人一人ニ付左ノ定限ニ據リ取扱フヘシ若シ其定限ヲ超過スルモ地方税ヨリ之ヲ支辨セズ

一 藥價

一日金六錢以內

但一服ニ付金貳錢以內

一 診察料

金拾錢以內

但一里以外ヨリ醫師ヲ招聘シ又ハ診察四度以上ニ及フモノハ本文定限外ノ診察料ヲ與フルコトアルヘシ而シテ此場合ニ於テハ病狀及其距離并度數ヲ記シタル醫師ノ書面ヲ添付スヘシ

一 診斷書又ハ檢案書

各一通ニ付金三錢以內

一 食料

一度金貳錢以內

但一泊ニ付食共金八錢以內

一小屋掛料

金三拾錢以內

但不得止場合ノ外之ヲ要セズ

一看護人

一人

一日金拾錢以內

但病狀ニ依リ之ヲ付セサルコトアルヘシ

一 死屍番人

晝一人
夜二人

金拾錢以內

一 棺桶繩苴等

一式

金四拾錢以內

一 埋葬穴堀人

一人

金拾五錢以內

一 死屍取扱人

一人

金拾五錢以內

一 掲示札

金四錢以內

一 墓標

金五錢以內

一 新聞紙廣告

三度 一度ハ一日

但 實 費

第六條 第二條乃至第四條ノ場合ニ於テ有籍者ハ其本籍ニ引取ル日即救護地ヲ又ハ治癒ノ日若クハ死亡ノ日ヨリ無籍者ハ廣告後滿期ノ日ヨリ五日以內ニ其手續ヲナスヘシ

第七條 死亡人ノ所持金ヲ以テ埋葬諸費ヲ支拂タルトハ第三條ニ掲テハ事項ヲ明記シ別紙

書式ノ費用明細書ヲ添ヘ有籍者ハ之ヲ
 殘金アラハ其本籍戸長ヘ送付シ本籍詳ナラサル者
 其金員共
 ハ當廳ヘ届出シ而シテ其本籍不詳者ノ所持金ニ殘余アラハ五ケ年間之ヲ保管シ期間満
 シモ尙判明セザルハ事由ヲ具シ當廳ヘ納付スヘシ
 但保管中本籍判明シ該剩餘金ヲ其本籍ヘ送致シタルハ更ニ其期未ヲ具シ當廳ヘ届出
 ツヘシ

第八條 管内本籍ノ者旅行中重病又ハ餓餓等ニ迫リ其地戸長ニ於テ救護ヲ受ケ該費用償還
 ノ照會ヲ受ケタルトキハ其家元ヘ通知シ速ニ辨償又ハ引取人ヲ差出サシムヘシ若シ其家
 元亦貧ニシテ辨償スルコト能ハス又ハ引取ラントスルモ實力ナキモノハ醫師ノ診斷書ヲ添
 ヘ第九條ノ手續ニ添據シ當廳ヘ伺出ヘシ

第九條 管内本籍ノモノ旅行中死亡シ其家元亦貧ニシテ埋葬諸費ヲ辨償スルコト能ハサルハ
 ハ戸長ニ於テ實力限リ辨償セシメ其不足分ハ近親ニ應分ノ助力ヲ爲サシメ尙不足アルハ
 ハ財産取調書戸籍寫及救護地戸長ヨリノ照會書寫并費用計算書ヲ添ヘ其所置方當廳ニ伺
 出ヘシ

第十條 第一條乃至第四條ノ場合ニ於テ死亡人又ハ病人ノ携帯セル幼年者等救護ノ費用ハ
 本人又ハ其家元ヨリ辨償セシムヘシト雖モ若シ亦貧ニシテ辨償シ能ハサルハ第八條第

九條ノ手續ニ據ルヘシ

(費用明細書式)

行旅病人(死亡人)救護(埋葬)諸費明細書

一金 内 諸 入 費

金 所持金并所持品
公賣代金
不足或ハ剩餘金

費用明細表

品 目	個 數	代 金
藥 價	何	何 錢
診 察 料	何	何 錢
何 々	何 個	何 錢
全	全	全
全	全	全

以上
一金
内
所持金并所持品
公賣代金
所持品公賣代金

品目	個數	代	金
何々	何	何	錢
全	全	全	
全	全	全	
全	全	全	

以上
右之通ニ候也
年月日
戸長 姓名 印

所持品公賣代金明細表

明治十九年丙
第八十一号連
ヲ以テ廢止

○丙第六十五號 明治十九年六月四日 郡役所 戸長役協
本年丙第六十三號通行旅病人及ヒ死亡人取扱方手續中第一條第二條及第四條ノ場合ト雖沖
繩縣下ノ者ニ限リ本籍へ通牒又ハ照會ヲ要セス其都度當廳へ届出ヲヘシ

但明治十六年八月丙第七十八號連ハ廢止ス
右相違ス

○訓第二十三號 明治十九年六月十二日 郡長 戸長

恤救取扱方ノ義ニ付テハ明治十六年八月丙第八十二號ヲ以テ相違ヲキ候趣モ有之其恤救ヲ出
願スル者ハ親戚隣保ノ協救等幾ント盡キ忽チ飢餓ニ迫ラントスル無告ノ窮民ニ限ル答ニ有
之然ルヲ漫リニ老幼癩疾疾病ヲ名トシ恤救ヲ出願スル窮民ノ數年一年ヨリ増加シ今ヤ殆ト
八百人ニ垂ントス且本年六月十日ノ調査ニ依リ試ミニ之レテ郡別シテ總人口ニ比例スレハ
百人ニ付キ三人以上ニ當ル郡アリ其壹萬人ニ付キ壹人ニ滿テタル郡アリ又全ク之レナキ郡
アリ夫レ斯ノ如キ窮民ノ數懸隔アル所以ノモノハ蓋シ土地ノ冷熱物産ノ多寡等ニ因ルヘシ
ト雖モ願フニ其受救者ノ多寡ナル郡ニ在テハ町村ニ救助方法ノ設ケ無ク又親戚隣保協救ス
ルノ情証ニ乏シク尙モ恤救規則ニ恰當スルモノハ直チニ官ノ救助ヲ請フナ以テ常トスルノ弊

ナキヲ保シ難ク故ニ自今尙一層精密ニ調査ヲ遂ケ可成官救ヲ仰カス町村又ハ親戚隣保等ニ於テ救助候様深ク注意ス可ク
右訓示ス

明治廿三年縣
達第三號

○丙第八十一號 明治十九年七月三日

郡役所 戸長役場

「沖繩縣

本年丙第六十三號達行旅病人及死亡人取扱方手續第一條第二條中本籍戸長ノ下ハ首里那覇ニ在リテハ何村役場間「三十六字之双注ヲ挿入ス
切ニ在リテハ番所若クハ藏元ノ類」

但本年丙第六十五號達ハ廢止ス

右相達ス

○訓元第五十六號 明治十九年十月八日

郡長 戸長

倒死人等ニシテ本籍詳カナラサルモノハ其最寄ヘ揭示ノ外尙ハ新聞紙ニ登載シ公告スヘキ
等之處其相貌景狀及携帶品等ニ就キ全ク乞食体ノモノト認メ公告ヲ爲スモ到底其効ナキモ
ノト思料スルトキハ新聞紙ニ登載ヲ要セス假埋葬ノ手續ヲ爲シタル上行旅病人及死亡人取
扱ヒ手續第三條ニヨリ其事由ヲ詳具シ費用請求スヘキ

明治十九年丙
第六十三號

○達第四十七號 明治十九年十月二十三日

郡役所 戸長役場

本年丙第六十三號達行旅病人及死亡人取扱方手續第四條中第二條「玉續」ニ補ルヘキノ下
「四十字」ヲ削除ス

但本年達第四十四號ハ取消ス

○縣達第三號 明治二十三年一月十五日

郡市町村

明治十九年丙第六十三號行旅病人及死亡人取扱方手續第一條左之通ヲ改正ス

但本年縣達第一號ハ廢止ス

第一條 行旅ノ發疾病又ハ飢餓等ニ迫ルモノアルトキハ所在市町村長ハ其住所姓名等ヲ詳
細聞札シ懇切ニ之レカ救護ヲ爲シ原籍分明ナル者ハ其病狀後並ニ費額ノ概算圖ヲ添ヘ
五日以内ニ原籍(沖繩縣下ノ者ハ首里那覇ニ在リテハ何村役場間切ニ在リテハ番所若ク
ハ藏元ノ類)郡長若クハ市町村長ヘ通報又ハ醫師ノ診斷書(休養症候經過原因病名治驗
后等明記シタルモノ)ヲ添ヘ引取方ヲ照會スヘキ

○告示第百六十三號 明治二十四年十一月十六日

今般縣下非常ノ震災ニ付被害人民ノ困難不紳段深ク惘然ニ思召サント時ニ東園侍從ヲ差遣ハ
キレ
臺上

皇后兩陛下ニ金千圓下賜目下救恤ノ補助ニ充ツヘキ旨趣セラレタリ

全 明治二十五年六月十日印刷
年六月十三日出版

版權登錄

版權
所有

福 井 縣

發行者 品川 太右衛門

福井縣福井市佐佐木中町五十二番地

印刷者 岡崎 左喜介

全縣全市販手上町五番地

